

# 資源管理型漁業推進総合対策事業 {沿岸特定資源調査 (マナマコ)} (要約)

清藤 真樹・須川 人志

マナマコの資源管理を促進するため、稚ナマコの発生機構や着底量の変動を調べ、天然稚ナマコの発生する場所の管理方策を協議するための調査を平成8年度から9年度にかけて行った。

なお、詳細は「平成9年度資源管理型漁業推進総合対策事業」(平成10年3月、青森県)として報告した。

## 1 ラーバ調査

マナマコのラーバ調査を行った結果、平成8年は東湾では6月上旬から7月上旬にかけて1週間おきにラーバの出現がみられ、西湾では6月中旬から7月上旬にかけて出現数が増加する傾向が見られた。平成9年は東湾で6月中旬から6月下旬にかけて出現数が増加する傾向がみられ、その後西湾で出現した。平成9年は前年に比べ全湾で出現期間がわずかに長く西湾の出現数は低い結果となった。むつ湾内においてマナマコは数回に渡り産卵することが推察された。

## 2 天然稚ナマコ着底量調査

平成8年と9年の6月に1辺が50cmの立方体のナマコ礁にホタテの貝殻と人頭大の石を詰め横浜町地先の水深3mと5mの数地点に設置し、天然稚ナマコが肉眼で確認できる12月以降に礁を引き上げ付着状況を調査した。

その結果、平成8年度は天然マナマコ稚仔のナマコ礁への着底は認められなかったが、平成9年は各地点において、着底が認められた。

この調査の他にむつ市角違地区において、同様にホタテ貝殻を使用したナマコ礁を設置したところ天然稚ナマコの付着が見られた。小規模なナマコ礁で天然稚ナマコの発生が確認できることから、天然海域においてもマナマコの発生が十分に起こっていることが考えられた。

## 3 水揚げ状況調査

平成8年のマナマコの水揚げについては、むつ市で約285トン、横浜町で約138トンの水揚げがあり、各漁協で水揚げされたナマコを銘柄別に測定した結果、2地区で漁獲目的とするマナマコのサイズに違いがあることが示された。